

地域アクションプラン総括シート

(物部川地域)

「数値目標等に対する客観的評価」の方法

- ・達成状況を客観的に評価できる目標について、以下により4段階評価を実施
(客観的に評価できない定性的な目標については、「-」としている)

区分	評価基準	
A+	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できたもの、または状況を改善できたもの	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標を達成したもの → 数値目標の達成率（または達成見込率）が100%以上 ・数値目標ではないが客観的に評価ができる目標を達成した（または達成する見込みがある）もの
A		<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標をほぼ達成したもの → 数値目標の達成率（または達成見込率）が60%以上100%未満
A-		<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの → 数値目標の達成率（または達成見込率）が60%未満
B	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できなかったもの、または状況を改善できなかったもの	

【地域アクションプラン 総括シート】
《物部川地域》

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>1 南国市の園芸主幹品目シシトウの再構築 《南国市》</p> <p>全国一のシシトウ産地維持のため、関係機関と協力の上、コスト削減や品質改善などに取り組み、生産・流通・販売上の課題を解決する。</p>	<p><生産上の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> 各JAの部会において省エネ対策、土着天敵利用技術等の研修を実施 (H24~H26 延46回) <p><流通・販売上の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> 3JA合同の消費宣伝活動 (H24~H26) 出荷予測の実施 (H24~H27) 消費地への生育情報の発信 (H25~H27) 	<p><生産上の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> 研修を重ねることにより、農家の省エネ機器に対する理解、土着天敵利用技術への理解が深まった。 ⇒各種補助事業を活用した省エネ機器の導入の促進 (ヒートポンプ新規導入農家2戸、木質バイオマスボイラー新規導入農家6戸) (H24~H26) ⇒タバコカスミカメラ導入農家の増 (50戸) (H24~H26) <p><流通・販売上の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> 首都圏での消費宣伝活動 (3回) ⇒市場のHPで紹介されるなど市場関係者からの評価は高かった。また、3JA合同で実施したことにより生産者のまとまりができてきた。
<p>2 還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化 《南国市》</p> <p>還元水を活用した栽培技術を確立し、「還元野菜」としてのブランド化を図るとともに成分分析をし、機能性の検証を行う。</p>	<p><「還元野菜」の生産・栽培技術の確率></p> <ul style="list-style-type: none"> 新規就農受入体制整備事業 (トータルサポート事業) H25: 8,450千円 (県4,225千円、市4,225千円) 耕作放棄地再生利用交付金 H25: 605千円 (県230千円、国375千円) <p><還元野菜の販路開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> 「こだわり青果市」出展 (H25) 「還元野菜」セットの販売 (H26) (日本トリム顧客向け) <p><「還元野菜」の機能性の検証></p> <ul style="list-style-type: none"> 高知大農学部で発芽試験の実施 農業技術センターで育苗試験の実施 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> こうちビジネスチャレンジ基金 (トリム基金) H25: 優秀賞受賞 (支援金500万円獲得) 5者による還元野菜プロジェクト推進のための連携協定締結 (H27) 	<p><「還元野菜」の販路開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> 「こだわり青果市」出展 (H25) (ブース来訪者: 東京25名、大阪24名) 野菜セット230セットの販売 (H26) <p><「還元野菜」の機能性の検証></p> <ul style="list-style-type: none"> 実証栽培施設として新規ハウスを設置 (H25) コマツナの試験栽培 (H25) ⇒収穫調査により一部優位差が認められた。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
<p>シシトウ販売額 10.8億円 (H23園芸年度： 10.4億円) ※販売額はJAへの 入金額</p>	<p>(H27年園芸年度末見込) 10.5億円 (直近の実績) 10.0億円 (H26園 芸年度)</p>	A-	<p>平成23園芸年度の単価安によりシシトウからの品目転換が進み、また燃油価格の高騰の影響により一部で促成栽培から雨よけ栽培への転換があったため、出荷量が減少し目標値は達成できなかった。省エネ対策、IPM技術の推進を図った結果、省エネ機器の導入や土着天敵の導入が進んだ。</p> <p><課題> 販売額は維持できているが、出荷量が減少しているため、増収対策や担い手の確保育成が必要である。</p>	<p>・出荷量の維持・拡大のために、環境制御技術等の導入による単収の増加や新規就農者の受け入れ等による担い手の確保育成を推進 ・消費地での消費宣伝活動および生産状況の情報発信を実施</p>
<p>栽培技術のマニュアル化ができた品目数 10品目 (H25：0品目)</p> <p>「還元野菜」の販売 先数 3箇所 (H25：1箇所)</p> <p>機能性に基づく差別 化ができた品目数 3品目 (H25：0品目)</p>	<p>(H27年度末見込) — (直近の実績) 0品目 (H26年度 末)</p> <p>(H27年度末見込) 3箇所 (直近の実績) 1箇所 (H26年度 末)</p> <p>(H27年度末見込) — (直近の実績) 0品目 (H26年度 末)</p>	<p>B</p> <p>A+</p> <p>B</p>	<p>南国スタイルへ新規ハウスを設置し、還元野菜の生産体制の構築や機能性の検証に取り組んでいる。また高知大学での試験栽培では、特定の品目で優位差のあるデータが得られている。目標値は達成できていない項目もあるが、生産体制の構築、機能性の検証は進みつつある。</p> <p><課題> ・栽培技術マニュアルの作成に向けた「還元野菜」の定義付け</p> <p>・南国スタイルの生産体制の強化</p> <p>・機能性に基づく差別化の推進</p>	<p>・関係者協議（南国スタイル、トリム等）により「還元野菜」の定義付けを行う。</p> <p>・南国スタイルは県及び市の支援を受けて生産体制を整備する予定であり、整い次第、実証試験に取り組み、協力農家も募っていく。</p>

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>3 エメラルドメロンの販売力向上対策</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市夜須町のJA土佐香美園芸部メロン部会夜須支部部員が生産するエメラルドメロンは平成19年には「夜須のエメラルドメロン」として商標登録を行うなど、独自のブランド化に取り組んできた。</p> <p>平成21年度から23年度には、県産業振興推進総合支援事業を活用し、生産面において新技術の導入（日射比例かん水制御システム）、販売面では、それまでの県内や関西圏を中心とした販売から関東圏での販売拡大を目指して、新たな販売戦略の構築に努めてきた。</p> <p>過去3カ年間の取組をもとにさらなる生産拡大、関東圏での販売量拡大・知名度向上と合わせて全消費地でのブランド化に取り組む。</p>	<p><生産性強化の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> 炭酸ガス施用農家への施用実態聞き取り調査（H25：～26：9戸） 栽培管理方法の現地検討会等の開催（H26：7回、H25：5回、H24：6回） 難防除病害虫被害軽減対策のための実証ほ設置（H24～）、勉強会の開催（H26：5回、H25：2回）、接木農家数（H26：1戸） 防除マニュアルの作成及び全戸配布（H26） <p><知名度・販売力の向上対策></p> <ul style="list-style-type: none"> 県外市場（大阪、名古屋、岐阜、東京）での訪問商談会の開催（H26：3日間） 県外市場（東京、名古屋、大阪、徳島等）バイヤーを招いての商談会の開催（H26：8回、H25：10回） 県外市場関係者の招へい（H24：2回） 量販店（東京、神奈川、愛知、兵庫、徳島、県内等）での試食宣伝（H26：7回、H25：14回、H24：6回） 	<p><生産性強化の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> 炭酸ガス施用の栽培方法が普及し、難防除害虫軽減対策が理解された ⇒炭酸ガス発生装置導入農家数 H24：6戸→H26：11戸、 新規導入台数 H25：4台、H26：14台 ⇒天敵導入農家数 H24：0戸→H26：17戸 ・生産者間で効果的な栽培管理方法が情報共有されるなどして、品質向上につながった ⇒低温期（1～2月）大玉化率（6玉入り9kg以上のケース割合） H24：66%→H26：76% ⇒高温期（7月）の品質向上A品率 H23：49.5%→H26：61.1% <p><知名度・販売力の向上対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイヤーとの商談会や県内外での販促活動の実施 ⇒関東での販売量は減っておらず、高品質で店持ち（可食期間）が長いとの評価で、市場からは安定供給の要望がある。 ・部会が日本農業賞（集団組織の部）の優秀賞を受賞
<p>4 ニラの産地力の向上「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」</p> <p>《香南市、香美市》</p> <p>JA土佐香美は日本一のニラ産地であるが、近年は、個々の農家の規模拡大が進む一方で、高齢化により部会員数は減少している。こうした状況の中で、農業所得の向上や産地の維持・拡大を図るため、産地でまとまりをもって、環境保全型農業技術や新技術の導入に取り組むとともに、担い手対策や既存農家の規模拡大支援など、産地力の向上に向けた取組を総合的に進める。</p> <p>また、食の安全・安心への取組とあわせて、「人と環境に優しいニラ産地」としての土佐香美ブランドを構築し、市場での有利販売に取り組む。</p>	<p><生産上の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> 作型改善個別指導（H26：16回） 電照栽培や炭酸ガス施用効果検証のための調査（H25～） 品種比較実証ほの品質・収量調査（H24～） 調整作業機の視察・実演会及び処理能力調査の実施（H25～） 栽培管理や品質向上のための講習会や現地検討会及び異物混入対策の目慣らし会の開催（H26：26回、H25：46回、H24：31回） 規模拡大や縮小など生産者意向調査の実施（H26：回答223戸/224戸） 新たな産地目標のための具体策の検討（H26～） <p><販売・流通上の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> イベント等での産地の取組の紹介及び試食宣伝等の販促活動の実施（H24～26） 小袋包装へ「高知家」ロゴマークを入れる取組の推進（H26） 	<p><生産上の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> 作型改善や電照・炭酸ガス施用等による冬季収量の増加 ⇒12～2月の収量 H24：1295t H25：1323t H26：1302t ⇒炭酸ガス施用機の導入農家数 H24：3戸→H26：8戸 ⇒電照栽培導入農家数 H24：7戸→H26：15戸 ・調整作業機の導入による作業労力の軽減 ⇒調整作業機の新規導入H26：2戸 ・新規就農者等の育成・確保対策に継続的に取り組んだことにより新規栽培者が増加した（内数＝新規就農者数） ⇒H24：9名（2）、H25：6名（3）、 H26：7名（7） ・新たな産地目標、「10年後の目標：販売額40億円」を役員会で決定 <p><販売・流通上の対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高知家」ロゴマーク入りニラの出荷が開始（H26）したことやさまざまな販促活動により、日本一のニラ産地としての知名度が向上した

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
エメラルドメロン販 売額 4.8億円 (H23園芸年度： 4.4億円) ※販売額はJAへの 入金額	(H27園芸年度見 込) 4.4億円 (直近の実績) 4.4億円 (H26園芸年度実 績)	A-	<p>現地検討会や講習会などでの情報共有により、生産者の技術レベルが向上した。栽培戸数や面積は減少したものの、販売促進活動による知名度の向上により、単価は上昇し、販売金額の維持につながった。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・難防除病害虫被害の軽減 ・低温期収量増の徹底 ・燃料費等の経費の節減 	<ul style="list-style-type: none"> ・難防除病害虫に対するIPM技術等防除対策のさらなる強化 ・低温期のさらなる品質・収量向上のための炭酸ガス施用等環境制御技術の向上 ・燃料費等生産コストの削減
ニラ販売額 30.0億円 (H23園芸年度： 28.4億円) ※販売額はJAへの 入金額	(H27園芸年度見込 額) 25.0億円 (直近の実績) 24.1億円 (H26年 園芸年度実績)	B	<p>新規の就農者を受け入れるための指導農業士増の取組や、生産規模別農家の経営調査結果の提示による規模拡大への誘導、他品目からの転換により、園芸用ハウス整備事業などの補助事業を活用し、面積を拡大してきたが、H25年度以降は、突風や台風による被害及び高齢化による離農により総栽培面積が減少した。また、作型改善等の取組も進めているが、まだ、春先の出荷量が多く、厳寒期や夏期の出荷が伸びていないため、販売額は減少した。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の高齢化 ・規模拡大への取組 ・新規就農者の受け入れ体制の強化 ・調整作業労力の確保と軽減 ・商品への異物混入や腐敗事故対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・産地ビジョン具体化と推進 ・調整作業の機械化と雇用が確保できる仕組みづくり ・作型改善と厳寒期や夏期の増収・品質向上による周年安定生産 ・ハウスの耐候性向上と露地栽培の施設化 ・担い手を育成する仕組みづくり ・生産履歴やGAP手法を取り入れての異物混入や腐敗等市場事故対策の徹底

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>5 生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策</p> <p>《香美市》</p> <p>香美市物部町を中心とした地域は、国内最大のユズの青果出荷（玉出し）産地であるが、生産者の高齢化などから生産の維持が困難になっている。</p> <p>このため、出荷作業時の労力軽減、農作業受委託の仕組みづくり、新たな担い手の掘り起こしを通じて作業者を確保し、産地の維持発展を図る。</p> <p>また、新たな需要を掘り起こし、選果場の機能を強化して販路を拡大する。</p>	<p>＜外部労力を活用した「ゆずもり」の体制強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化するユズ農家の労働負担軽減策として整備（H22）した作業受託組織「ゆずもり」の事務局をJAに置き、料金を見直し、青壮年部等をサブメンバーとして新体制を設立（H24） <p>＜機械で選果された新規格の商品化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25：小袋包装機の導入 こうち農業確立総合支援事業費補助金：11,266千円 （県）5,633千円 （市）5,633千円 ・「ものべゆず女性倶楽部」が発足（H24）し、一般消費者向けにユズの食べ方を紹介するなどユズの販促活動を開始 <p>＜知名度向上と後継者確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全生産者を対象としたアンケート調査の実施 ・青玉、カラーリング、黄玉、冬至、貯蔵をリレー出荷し、防除作業を省力化する経営モデル（1.5ha規模）の作成 <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地協議会（部会3役、関係機関）の定時開催（H24～） ・産地の将来像を「産地構造改革計画」の策定 ・圃場整備（H24） こうち農業確立総合支援事業費補助金：1,208千円 （県）604千円 （市）604千円 ・スピードスプレーヤーの導入（H26） こうち農業確立総合支援事業費補助金：4,304千円 （県）2,152千円 （市）2,152千円 	<p>＜外部労力を活用した「ゆずもり」の体制強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆずもり」の利用実績1件（H24、病気の部員を助けるため、他の部員（3名）が防除作業（70a）を受託 <p>＜機械で選果された新規格の商品化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透明小袋（一般消費者向け商品）の生産体制の整備による新たな販路開拓 ⇒透明小袋の生産量371,094玉（H26） <p>＜知名度向上と後継者確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から、生産者の高齢化や11の樹齢が高くなったことにより、生産が不安定になっていることが判明 ⇒部会が青果産地として100haの園地（現状145ha）の維持を合意し、若手生産者にとっては大規模経営に向けた足掛りとなった <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本一の青果産地維持のため、部会として機械化を見据えた園地の整備など、取り組むべき方向性が明確になった ・せま地直しやスピードスプレーヤーの導入 ⇒防除作業が省力化された
<p>6 直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大</p> <p>《南国市》</p> <p>国道195号通称「あけぼの街道」の全線開通を好機ととらえ、直販所・加工所を本線沿いに移転拡充して地域農産物の販売や地域資源を活用した加工品の開発・販売を行い、地域農業者の所得向上を図るとともに、隣接する「ながおか温泉」への誘客を促進し、交流人口の拡大につなげる。</p>	<p>＜直売所及び加工場の移転拡充＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産振補助金 H25：72,040千円 （県50,000千円、市22,040千円） ・農業創造セミナーへの参加（H24） <p>＜情報発信による集客の取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡温泉や西島園芸団地と連携したイベントの開催 （H26：あけぼの街道ひまわりフェスタ 1回） 	<p>＜直売所及び加工場の移転拡充＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「株式会社なの工房」設立（H25.11月） ・「なの市・なのカフェ」オープン（H26.4月） <p>⇒売上額の増加 H22：33,000千円 →H26：171,804千円</p> <p>⇒雇用の増加 H22：3人 →H26：32人</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性	
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括		
ユズ販売額 5億円 (H23園芸年度： 4.3億円)	(H27園芸年度見 込) 5.0億円 (直近の実績) 4.3億円 (H26園芸 年度)	A+	産地協議会、3役会、委員会の役割分担が明確化され、部会が主体的に課題解決に取り組む体制が整った。 これまで業務用のみであった販路が、H25の小袋包装機の導入により、一般消費者向けの新たな販路開拓につながり、物部のユズをより広く知ってもらう機会も増えた。 また、耕作放棄地をユズ園に造成した圃場整備や防除作業を省力化するスピードスプレーヤーの導入により、若手生産者が大規模経営を進めるための足掛かりができた。 <課題> ・防除作業や収穫作業が効率的に行える圃場の整備 ・生産者の高齢化と後継者不足	・スピードスプレーヤーが運行でき、収穫作業の省力化につながる圃場整備と改種・新植を推進する。 ・高齢化により集落維持が困難な地域に対して、ユズ園の団地化を進める。 ・防除作業の省力化や選果設備を導入した大規模経営体を育成するとともに、それらの進んだ経営モデルを提示することにより、新たな担い手を確保する。	
直販所等の売上額 100,000千円 (H22：33,000千 円)	(H27年度末見込) 170,000千円 (直近の実績) 171,804千円 (H26年度末)		A+	移転拡充によるフロア面積の拡大や新規のカフェ部門の立ち上げにより売上は増加している。運営のためのスタッフの雇用も発生し、売上と雇用者数が共に目標値を上回る数字となっており農家所得の向上に繋がっている。 一方で、経費も同様に増加しており、売上額の伸びが利益に貢献していない状況が続いていたが、商品メニューの見直しを進めるとともに経費の削減に取り組んでおり、改善されつつある。 <課題> ・利益の出る体制づくり ・ながおか温泉への誘客促進	・引き続き経費の削減及び適切なキャッシュフローの管理に努め、利益のでる体制を作っていく。 ・共催イベント開催等、ながおか温泉との連携強化により交流人口の拡大を図る。
直販所等の雇用者数 8人 (H22：3人)	(H27年度末見込) 32人 (直近の実績) 32人 (H26年度 末)			A+	
ながおか温泉入場者 数 19万人 (H22：16万人)	(H27年度末見込) 17万人 (直近の実績) 16万人 (H26年度 末)	A-			

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>7 地域農産物を活用した直販所「ひかり市」の施設拡充</p> <p>《南国市》</p> <p>農産物の価格低迷と資材等の高騰により大幅に減少している農家所得の向上のため、直販所を移転改装するとともに機能拡充を図り、地元農産物を活用した商品の販売と顧客獲得に取り組む。</p>	<p><直販所の移転・拡充整備、販路開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・直販所整備 <ul style="list-style-type: none"> 県産振補助金 <ul style="list-style-type: none"> H24：15,734千円 (県12,587千円、市3,147千円) ・加工品開発 <ul style="list-style-type: none"> 南国市中小企業振興事業費補助金(地域特産品等開発事業) <ul style="list-style-type: none"> H26：市150千円(ラベルデザイン) ・経営改善 <ul style="list-style-type: none"> 農林水産物直販所支援事業アドバイザー派遣 <ul style="list-style-type: none"> H24：2回 H25：1回 ・新規出店者募集 	<p><直販所の移転・拡充整備、販路開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごとおち市」としてオープン(H25.3月) <ul style="list-style-type: none"> ⇒売上額の増加 <ul style="list-style-type: none"> H22：4,325千円 →H26：28,250千円 ⇒来客数の増加 <ul style="list-style-type: none"> H25(3月~12月)：27,066名 H26：38,851名 ⇒雇用の創出(H24~H27見込) <ul style="list-style-type: none"> 9名(うち長期2名、短期7名) ⇒出店者数の増加 <ul style="list-style-type: none"> H22：11名 →H27：98名
<p>8 加工品販売による夜須地域の活性化</p> <p>《香南市》</p> <p>地場産物を活かした加工品開発・販売を行い、生産農家の所得向上につなげる。</p>	<p><ソフト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品生産販売計画検討(18回) ・店頭の商品PR方法の改善、検討(2回) ・新商品、主力商品の開発に向けた検討(17回) ・加工業者との新商品開発、検討(3回) ・パン、加工品等技術講習会(3回) ・HP等担当者との情報発信ツールとしての活用方法の研究、検討(3回) <p><ハード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> H25：県産振補助金 4,613千円 	<p><ソフト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設が整い技術者も養成され、加工品の生産体制が整った。 ・ゴロゴロメロンパンなど加工品の販売が始まった。 ・地元加工業者と連携した新たな加工品の販売が開始された(ジュレ3品)。 ⇒加工品販売額の増加 <ul style="list-style-type: none"> H22：7,000万円→H26：9,600万円 ⇒雇用の創出(H24~H27) <ul style="list-style-type: none"> 5名
<p>9 地産地消・食育の推進</p> <p>《南国市》</p> <p>これまで先進的な地産地消の活動を行ってきたが、学校給食への野菜の供給割合は10%台であり、これからも農業生産法人の作る重量野菜の季節的利用、南国産野菜の生産情報の提供など地産地消の推進のため、組織の連携強化等を図っていく。あわせて、病院や介護施設など業務筋への販売、配送拡大に努める。</p> <p>また、生産者と消費者をつなぐ場づくりとしてオープンした「農家レストランまほろば畑」についても、経営の安定化を図り、地産地消を推進していく。</p> <p>さらに、地域食材を活用した料理や商品の開発及び販売を進めるためにベーカリーを併設した農園レストランを整備・運営することにより、地域の農業所得の向上と雇用の創出を図る。</p>	<p><㈱南国スタイル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進ふるさと雇用事業費補助金 <ul style="list-style-type: none"> H24~H26：2名 ・南国市JA出資型農業生産法人育成補助金 <ul style="list-style-type: none"> H24~H27：市5,000千円 ・南国市地産地消推進補助金 <ul style="list-style-type: none"> H27：市5,000千円 <p><農家レストランまほろば畑></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開店日数 <ul style="list-style-type: none"> H24：41回 H25：40回 H26：38回 H27：37回(予定) <p><㈱ナイフアンドフォークカンパニー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農園レストランの整備に着手 <ul style="list-style-type: none"> 県産振補助金 <ul style="list-style-type: none"> H26：75,000千円 (県50,000千円、市25,000千円) 	<p><㈱南国スタイル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食への供給体制の構築(毎年) <ul style="list-style-type: none"> ⇒供給割合 19.54%(H27.5末) ・業務筋への供給体制の構築(毎年) <ul style="list-style-type: none"> ⇒計21事業体(安定的な供給先)(H27.6末) <p><農家レストランまほろば畑></p> <ul style="list-style-type: none"> ・のべ来店者数 約35,000人(H27.6末) <p><㈱ナイフアンドフォークカンパニー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レストラン H27.9月竣工予定

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
直販所の営業日数 週6日 (H22:週2日)	(H27年度末見込) 週7日 (直近の実績) 週7日(H27.6末時 点)	A+	<p>移転拡充により、フロア面積の拡大や品揃えの充実、営業日の増加など直販所としての機能強化が進んだ。来客数も増加しており、売上額はH27目標値に対して下回るものの、毎年順調に増加している。出店者数はH27目標値をほぼ達成しているが、常時出店があるのは登録数のうち3割程度であり、農家の所得向上という面では一定の効果に留まっている。</p> <p>その他、集客イベントや地域農産物を使った商品開発など、魅力ある店づくりにも取り組んでいる。</p> <p><課題> ・常時の出店者の増加 ・競合店との差別化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出店者との連携を強化し、販売意欲を高めていく ・オリジナル商品の開発
直販所への出店者数 100名 (H22:11名)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 98名(H27.6末時 点)	A		
直販所売上額 50,000千円 (H22:4,325千 円)	(H27年度末見込) 37,400千円 (直近の実績) 28,250千円(H26 年度末)	A		
直販所スタッフ雇用 3名 (新規)	(H27年度末見込) 9名 (直近の実績) 9名(H26年度末)	A+		
加工品販売額 10,000万円 (H22:7,000万 円)	(H27年度末見込) — (直近の実績) H26:9,600万円	A	<p>加工施設の整備やSNSを活用したタイムリーな情報発信などハード、ソフト両面の取組により、H26年度販売額はH27年度目標の96%を達成した。</p> <p>また、加工施設では5名が雇用(H24~27)されるなど、雇用の創出にも寄与している。</p> <p><課題> ・消費者ニーズに加え原価率も考慮した既存商品の改善と新たな商品開発などさらなる販売額向上対策と収益性改善の取組が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パンの主力商品の強化とその他加工品のブラッシュアップ及び新商品開発 ・さらなる販売額の増加等による経営の安定化
学校給食における地元野菜供給割合 15% (H22:10.7%) 金額ベース	(H27年度末見込) — (直近の実績) 20.81%(H26年度 末)	A+	<p>学校給食については、学校給食週間での地産地消費率100%給食を実施するなどにより、目標値を超えて順調に推移している。また、(株)南国スタイルによる業務筋への配送も目標値以上に増加しており地産地消の推進は十分に行われている状態である。</p> <p>農家レストランについては、1回の開催あたり平均200人程度の集客があり、安定的に集客が行えるようになってきている。</p> <p>(株)ナイフアンドフォークカンパニーの農園レストランについては、9月のオープンに向け建築作業が進行している。</p> <p><課題> <南国スタイル> ・配送車・人員等の配送力不足</p> <p><農家レストランまほろば畑> ・メンバーの高齢化が進んでおり、来年度からの5グループでの継続は困難な状態となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (株)南国スタイル ・補助金による配送体制の強化 農家レストラン ・新グループの設立による運営体制の強化及び後継者の確保。
業務筋への供給 15事業体 (H22:6事業体)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 20事業体(H26年 度末)	A+		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>10 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組</p> <p>《南国市》</p> <p>大河ドラマ「龍馬伝」を契機に再燃する龍馬ブームを好機と捉え、豊富な園芸野菜を使った「ご当地グルメ」として、龍馬に関する逸話や先達の地等の歴史的背景を活用した「シャモ鍋」を新たに創出し、「地産「来」消」による交流人口拡大を図るとともに効果的なメディア露出などによる情報発信を強化する。</p> <p>また、シャモの飼育・ブランド化を通じて休耕田等を活用した飼料米栽培、さらには葉物野菜の出荷残渣の飼料化や鶏糞の土壌還元等の可能性を検討し、新たな農業手法を検討する。</p> <p>流通の少ないシャモ肉は少数生産であって高級食材として取引されるため、飼育環境のトレーサビリティ等による高付加価値化を図り、「ブランド鶏肉」としての外商戦略を展開していく。</p>	<p><加工品への取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 加工品開発（H24：シャモ鍋セット、H25：シャモスキヤキセット） <p><高級食材としての外商戦略づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ブランドイメージ形成のため、シャモ肉提供店舗を「シャモ鍋社中」としてプロモーション。 県外商談会に出展 <p><組織の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> 人件費補助 <ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進ふるさと雇用事業費補助金 H24～26：1名 シャモを突破口とする中心市街地賑わい創出事業（市単） H27：1名 生産体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> 県産振補助金（孵卵器・貯卵器） H25：4,021千円（県2,681千円、市1,340千円） ごめんケンカシャモ飼育施設等整備事業費補助金（直営鶏舎） H27：市1,980千円 	<p><加工品への取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 加工品を開発し、商談会、ネット販売、ふるさと納税等のツールを活用して販売（H24～H26） <p>⇒売上額の増加 H23：8,210千円 →H26：22,638千円</p> <p><組織の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局として専任の職員（1名）を雇用（H24～27） <p>⇒経営体制の強化充実を図ることができた。</p>
<p>11 民有林における素材の増産</p> <p>《物部川地域全体》</p> <p>森林所有者の所得の向上と、山村地域の振興を図るため、引き続き集約化施策を推進し、森の工場の拡大と素材の増産に取り組む。</p>	<p><森の工場の推進及び森林経営計画の策定></p> <ul style="list-style-type: none"> 森林組合、事業体、地元への説明会の開催 H24：4回 H25：3回 H26：4回 計：11回 <p><林業事業体の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> 高性能林業機械、作業道など基盤整備 <p>高性能林業機械 H24：3台 H26：1台 計：4台 県補助金51,728千円</p> <p>作業道 H24：13,163m H25：12,859m H26：11,866m 計：37,888m 県補助金150,835千円</p> <p><担い手の育成・確保></p> <p>（伐採、搬出技術を有する職員の育成） H24～H26：OJTによる技術者養成 15人 H24～H26：ふるさと雇用5人</p> <p><境界確認作業及び森林情報等のデータ整理と活用></p> <p>H24：97ha H25：371ha H26：301ha 計：769ha 県補助金41,553千円</p> <p><放置林の解消></p> <p>（保育間伐の実施） H24：257ha H25：148ha H26：56ha 計：461ha 県補助金33,976千円</p> <p>※上記事業にかかる県補助金は、高性能林業機械等整備事業費補助金、森の工場活性化対策事業費補助金、原木増産推進事業費補助金、森林支援整備事業費補助金、森林整備加速化事業費補助金、造林事業費補助金森林整備加速化事業費補助金など多数。</p>	<p><森の工場の推進及び森林経営計画の策定></p> <ul style="list-style-type: none"> 森林組合、事業体、地元への説明会の開催により、各種補助制度等に理解を深めてもらうとともに協力体制が整った。 <p>⇒森の工場の整備（H24～H26年度末） 9,855ha</p> <p><林業事業体の育成、担い手の育成・確保、境界確認作業及び森林情報等のデータ整理と活用、放置林の解消></p> <ul style="list-style-type: none"> 高性能林業機械の導入や作業道などの基盤整備、伐採、搬出技術を有する職員の育成により素材生産量が増加した。 <p>⇒素材生産量 H22：26,053㎡ →H26：35,887㎡</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
<p>ごめんケンカシャモ 提供店舗数（南国市 内） 18店舗 (H23 15店舗)</p> <p>シャモ目標飼育羽数 3,000羽 (H23 2,000羽)</p> <p>ごめんケンカシャモ を使った加工品数 3品 (H23 0)</p>	<p>(H27年度末見込) 19店舗 (直近の実績) 19店舗 (H26年度 末)</p> <p>(H27年度末見込) 2,190羽 (直近の実績) 1,859羽 (H26年度 末)</p> <p>(H27年度末見込) 3品 (直近の実績) 2品 (H26年度末)</p>	<p>A+</p> <p>A-</p> <p>A+</p>	<p>加工品の開発及び県内外への情報発信により、 売上額が大幅に増加し、ブランド鶏肉として認 知されるようになった。提供店舗数もH27目標 値を上回り、外商戦略など次の展開が期待でき る。 また、飼育羽数はH27目標値に到達していない が、施設整備や高知農業高校との連携、飼育 データの蓄積により、生産体制が強化されつつ ある。</p> <p><課題> さらなる生産体制の強化とともに、今後、県内 外の大手企業との取引拡大のため、食鳥処理工 程を含めた衛生管理の向上が必要である。 また、組織の経営強化も課題である。</p>	<p>・新たな加工品の開発、商談会出 展等による販路拡大 ・衛生管理や経営面の強化に向け た講習会等への参加</p>
<p>「森の工場」整備済面 積 19,000ha (H22 : 9,400ha)</p> <p>素材生産量（民有林 のみ） 47,500㎡ (H22 : 26,053 ㎡)</p>	<p>(H27年度末見込) 21,109ha (直近の実績) 19,255ha (H26年度末)</p> <p>(H27年度末見込) 43,202㎡ (直近の実績) 35,887㎡ (H26年度末)</p>	<p>A+</p> <p>A</p>	<p>「森の工場」は、H25年度末に当初目標の 15,459haを大きく上回り18,143haとなっ たため、H26年度に19,000haに引き上げた が、H26年度末には、19,255ha（達成率 122%）の整備が完了し目標を達成すること ができた。 また、素材生産量については、制度の浸透や各 種補助事業の効果もあり、H25年度には目標 に対して約88%の42,000㎡を生産するこ とができた。 H26年度は、台風被害等の影響で生産目標に は達しなかったが、「森の工場」の整備により、 素材生産量は増加した。</p> <p><課題> ・作業道及び高性能林業機械等を活用した効 率的な作業システムの構築 ・新たな担い手の育成・確保</p>	<p>・高知おおとよ製材（H25）や 土佐グリーンパワー（H27）の 稼働による需要の増加に対応す る、素材の安定供給 ・H27に開校した林業学校と連 携した新たな担い手の育成・確保</p>

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>12 木質バイオマスの活用に向けての取組 《物部川地域全域》</p> <p>需用者開発について、三市が連携して取り組んだ結果、一定の進展があった。今後は排出量取引などを活用した需用者の負担軽減の仕組みづくりを行う。 また、木質バイオマス燃料の安定供給の仕組みづくりについて検討する。</p>	<p>＜排出量取引などを活用した需用者の負担軽減の仕組みづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4JA共同灰処理の検討 H26：県木質資源利用促進事業費補助金 298千円 ・国の事業を活用した木質バイオマスボイラーの導入 H25：県木質資源利用促進事業費補助金 30,908千円 H26：県木質資源利用促進事業費補助金 30,434千円 	<p>＜排出量取引などを活用した需用者の負担軽減の仕組みづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4JA共同灰処理の実施（H26） ⇒「木質バイオマス燃焼灰の自ら利用の手引き」を公表したことによる灰処理の実施（H26） ・園芸用ボイラー9基の導入 H25：JA南国・JA十市・JA長岡 各1台 H26：JA十市・JA長岡 各3台
<p>13 シイラ等の加工商材活用 《香南市》</p> <p>シイラ等の加工による浜値向上と付加価値増加を通じて、漁業者の所得向上を図る。</p>	<p>＜漁協の入札参加＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協職員等、関係者との協議及び情報共有（H26：4回） <p>＜前処理加工の実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な加工体制の構築 ・衛生管理に係る指導・助言（県版HACCP取得に向けた取組み）（随時） <p>＜新たな販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取引先との定期的な情報交換（1～2回/週） 	<p>＜漁協の入札参加＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協自らが入札に参加し、浜値の底支え（小型サイズを@30/kg以上で入札）を図った。 ⇒シイラ購入金額・量・平均単価 H22：573千円 29.4トン @19.5/kg →H26：8,793千円 107.7トン @81.6/kg <p>＜前処理加工の実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パート雇用8名 ⇒高知県食品高度衛生管理手法認定を取得（H27年2月） <p>＜新たな販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、1～2件程度の新規取引先を獲得 ⇒売上高の増加 H22：2,571千円 →H26：16,011千円
<p>14 地域の特産品づくり～農産物加工への取組～ 《南国市》</p> <p>特産品づくりについては、これまでも取組みを行い様々な特産品が開発されてきた。今後、一部の企業・団体でなく、特産品づくりに取り組む組織・グループを育成し、市全体に広めるとともに、プロダクトアウト型でなく、顧客ニーズも把握しながら、地域資源を活かした特産品づくりを促進する。また、できあがった特産品の売り込みを通じて地域をPRし、地域の魅力向上を図る。</p>	<p>＜特産品づくりの振興＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品の開発 小規模事業者地域活力活用新事業 全国展開支援事業補助金 （全国商工会連合会） H24：3,420千円 南国市中小企業振興事業費補助金 （地域特産品等開発事業） H24～26：計15事業採択 	<p>＜特産品づくりの振興＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特産品等開発事業により、特産品づくりのプレーヤーの発掘が進んだ。 ⇒開発商品売上額の増加 H22：656万円（28品目） →H26：3,439万円（23品目）

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
ペレット利用量 1,230 t (H23 : 517 t) 排出量取引 1,500t-co2 (H23 : -)	(H27年度末見込) 810 t (最近の実績) 698 t (H26年度 末) (H27年度末見込) 0t-co2 (最近の実績) 0t-co2 (H26年度 末)	A- B	木質バイオマスボイラーの設置台数の増に伴い、ペレット使用量が増加し、課題となっていた木質バイオマス燃焼灰の利用についてもH26から可能となった。CO2排出量取引については、これまでボイラーの導入に自己負担が発生しなかった(～H26:補助率定額[10/10以内])ことから実績はないが、H27年度以降は、補助率の変更により一部負担が生じることとなったため排出量取引の可能性が出てきた。 <課題> ・輸送のロスなく、地域でバイオマス燃料が供給できる燃料供給の基地づくり ・排出量取引を活用した負担軽減の仕組づくり	・木質バイオマスボイラーのさらなる導入 ・地域における燃料供給基地づくり ・排出量取引の可能性の検討
シイラ加工事業の販売金額 700万円 (H22 : 2,571千円) 衛生管理の認証 県版HACCPの取得	(H27年度末見込) — (直近の実績) 1,601万円 (H26年度末) (H27年度末見込) — (直近の実績) 高知県食品高度衛生管理手法認定の取得 (H27年2月)	A+ B	販路開拓は順調であり、年間1～2件程度の新規取引先を獲得している。それに伴って売上高も増加傾向にあり、H26年度末で目標値を大きく上回り、H27年度も同等程度の実績も見込める。 一方で、パート雇用者の高齢化もあって、生産体制に課題が残る。衛生管理においても、高知県食品高度衛生管理手法認定を取得し、一定の成果が見られるが、県版HACCP取得にまでは至っていない。 <課題> ・加工従事者の高齢化	・販路及び売上高については、現状を維持していく。 ・生産体制に残る課題については、人員の強化や省力化のための設備投資等の事業環境の再整備を検討する必要がある。
地域産品を活用した新しい組織・グループ設立数 10組織・団体 (新規) 開発商品売上額 1,000万円 (40品目) (H22 : 656万円 (28品目))	(H27年度末見込) 6組織・団体 (直近の実績) 6組織・団体 (H26年度末) (H27年度末見込) — (直近の実績) 3,439万円 (23品目) (H26年度末)	A A+	特産品づくりに取り組むグループが市の補助を受けて新たに6組織設立され、商品売上額はH27目標値を大きく上回っている。また、南国市地域雇用創出推進協議会による各種セミナーの開催や試作品の開発により、6次産業化の意識醸成ができつつある。 <課題> 顧客ニーズに沿った商品づくりと、既存商品のさらなる磨き上げが課題である。また、開発された商品の販路拡大や外商促進も必要である。	・アドバイザー制度等の活用による商品の磨き上げ ・商談会への出展による販路拡大

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>15 香美市ブランドの確立・特産品づくり</p> <p>《香美市》</p> <p>香美市ブランドの確立、特産品づくりを行うことを通じて、働く場の確保と所得の向上を図る。</p>	<p><地域ブランド商品の製造・流通・販売></p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市観光協会運営事業費補助金 <ul style="list-style-type: none"> H24 11,000千円 H25 11,000千円 H26 11,000千円 H27 11,000千円 ・情報発信交流施設指定管理料 <ul style="list-style-type: none"> H26 4,400千円 H27 4,400千円 ・イベント等への出店による特産品の販売及びPR <ul style="list-style-type: none"> H24 46回 H25 35回 H26 30回 H27 9回（1-四半期時点） ・土佐の食1グランプリへの出店（H24） ・県産振補助金（ステップアップ事業） <ul style="list-style-type: none"> H24 450千円（ゆず皮商品の開発等） ・産地視察型商談会に参加（H27） ・産振アドバイザー導入（H25） <ul style="list-style-type: none"> 1件・3回（パッケージデザイン） <p><新たな加工食品の開発・販売></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業創造セミナーに参加 <ul style="list-style-type: none"> H25 1団体 H27 1団体 ・6次産業化支援チームによる支援 <ul style="list-style-type: none"> H27 2団体 <p><シカ肉の活用・販路拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シカ肉料理の提供・販売 <ul style="list-style-type: none"> 別府森林総合利用施設指定管理料 <ul style="list-style-type: none"> H26 19,000千円 H27 19,000千円 	<p><地域ブランド商品の製造・流通・販売></p> <p><新たな加工食品の開発・販売></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外イベント等への出展による特産品のPR ・奥物部森の駅ブランドのすし酢を開発（H24） ・新商品（ゆず皮の佃煮、ピール）が完成（H24） <p>⇒特産品売上額の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> H22：4,808千円（10品目） →H26：9,854千円（18品目） <p><シカ肉の活用・販路拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐の食1グランプリ 4位入賞（H24） ・全国ジビエサミット（長野県）に参加（H25） <p>⇒シカ肉加工品を広く一般に周知できた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通販サイト「四国産直市場」にて鹿肉ローストの取扱開始（H24～H27）
<p>16 「ごめん」の賑わいづくり～ごめんの活性化～</p> <p>《南国市》</p> <p>かつては南国市の中核的存在であった「ごめん商店街」に再び賑わいを取り戻せるよう取組を行っていく。地元商店主の大半が高齢化し、後継者がいないために主体的な取組が生まれにくい状況だが、これまでの取組の中でできたやなせたかしロードや高知農業高校のアンテナショップ、ごめんの軽トラ市などを活かし、地元の意識醸成を図りつつ、賑わい拠点の創出や運営管理できる組織づくりにより、まず人が訪れる仕組みづくりを図っていく。</p>	<p><賑わい創出のための拠点施設整備、空き店舗の活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・後免町商店街活性化事業 <ul style="list-style-type: none"> H26：市1,040千円 H27：市1,635千円 <p><中核的な地域資源の活用と情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごめん・よってご広場」に企画運営員と集落支援員を配置し、地域を巻き込んで実際に活動できる組織として「ごめん町イベント実行委員会」が組織された。（H26） 	<p><賑わい創出のための拠点施設整備、空き店舗の活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や関係団体と連携して「ごめん町イベント実行委員会」が各種イベントを企画開催し、商店街の賑わいを創出した。（H26） <p>⇒ごめんの月見 入込客数 280人</p> <p>骨コツフェスタ 入込客数 130人</p> <p>キャンドルライブ 入込客数 80人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他イベントの開催 <ul style="list-style-type: none"> 「ごめんの軽トラ市」（毎年） 「ハガキでごめんなさいコンクール」（毎年） ・後免防災コミュニティセンターの完成（H27）

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
開発商品売上額 6,300千円(20品 目) (H22: 4,808千円 (10品目))	(H27年度末見込) — (直近の実績) 9,854千円(18品 目)(H26年度末)	A+	香美市のユズやシカ肉を活用した加工品を開 発。県内の販路については、緩やかながら順調 に拡大していることに伴い、売上額も増加して いる。 開発商品売上額については、H26年度末実績 でH27目標値を達成している。品目数について は、実績達成率80%。 <課題> 各団体メンバーの高齢化に伴う担い手の確保	・必要に応じた機器類の整備を支 援する ・ニーズをふまえた商品開発及び 既存商品のマイナーチェンジを行 う。 ・消費税増税を見込んだ、原価計 算の見直しを実施し、手数料など で商談負けしないよう規格変更に ついては、視野に入れ検討する。 ・県の主催する商談会等を紹介 し、参加していただくことで販売 先を拡大する。
賑わい創出のための 拠点施設整備 1件 (H23: 0件)	(H27年度末見込) 1件 (直近の実績) 1件(H26年度末)	A+	「ごめんの軽トラ市」も定着し、イベント時 には安定的に集客が行われている。賑わい創出の ための拠点施設となる「後免防災コミュニティ センター」も完成し、ごめん町イベント実行員 会による各種イベントや、定期的な農業高校の アンテナショップの開催などもあって、少しず つ地域に賑わいが戻っている。	・継続してイベントを実施し、よ り多くの地域住民を巻き込んでい く。 ・大手玩具メーカーの工場建設の 話があり、これを起爆剤に商店街 活性化の方法を探っていく。
空き店舗活用 2件 (H23: 0件)	(H27年度末見込) 2件 (直近の実績) 1件(H26年度末)	A+	<課題> 近隣に大型ショッピングセンターの出店計画が あり、影響が懸念されている。 また、イベント時には一定の集客があるもの の、日常的にはあいかわらず人通りは少ない。	
地元・地域を巻き込 んだ実際に活動でき る組織の設立 1組織 (H23: 0組織)	(H27年度末見込) 1組織 (直近の実績) 1組織(H26年度 末)	A+		
ごめん商店街の歩行 者通行量 ばいきんまん前20人 /H、ジャムおじさん 前40人/H (H23: ばいきんま ん前 12人/H、 ジャムおじさん前 23人/H)	(H27年度末見込) — (直近の実績) ばいきんまん前 13人/H、ジャムお じさん前20人/H (H26年度末)	B		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>17 香南市の地場産品販売促進</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市の地場産品を事業者が一体となり販売活動を行い売り出すことで、香南市の知名度の向上や地域の農業者、商業者等の所得の向上を図る。</p>	<p>＜地場産品の開発と販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品カタログ販売（H24～27） 商品ネット販売（H24～27） 体制の充実強化 <ul style="list-style-type: none"> 県産振ふるさと雇用事業費補助金 H24～26：2名雇用 めざせ弥太郎！商人塾参加（H24） 	<p>＜地場産品の開発と販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 土佐香南まるごと旨市カタログの発行回数が増 <ul style="list-style-type: none"> （H25～春夏号・秋冬号の年2回） H24：注文件数154件、売上額1,482千円 →H25：注文件数269件、売上額2,033千円 ふるさと納税の記念品への活用による増 <ul style="list-style-type: none"> H24：注文件数154件、売上額1,482千円 →H26：注文件数832件、売上額8,250千円
<p>18 香南市の商業振興への取組</p> <p>《香南市》</p> <p>コミュニティガイド事業で作成・配布した「生活情報ガイド」や「コミュニティイベント」の継続により、地域の消費者に対し生活の利便性を提供するとともに、商業者のまとまりを再構築し、商業者が一体となって取り組みを行い、地域内での顧客の増加、さらには地域外への商圏拡大を目指す。</p>	<p>＜商業者が一体となった取組の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域振興等地域活性化事業（高知県商工会連合会）を受託 <ul style="list-style-type: none"> H25：1,000千円 地域内資金循環等事業開発検討事業（高知県商工会連合会）を受託 <ul style="list-style-type: none"> H26：1,100千円 コミュニティイベントの開催（H24、25） 香南市とのポイントカードシステムのポイントについての協議（H26） 	<p>＜商業者が一体となった取組の推進＞</p> <p>《H25》</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域振興等地域活性化事業（調査・研究）報告書の取りまとめ ポイントカード事業にかかるアンケート（消費者及び商店者対象）実施 <ul style="list-style-type: none"> 事業者向け 回答数107（対象事業所350） 消費者向け 回収数229（配布数：香南市全世帯11,000部、店舗等4,000部） <p>⇒香南市全体に普及可能な新たな商業振興策の方向を提示することができた。</p> <p>《H26》</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域内資金循環等事業開発検討事業 ポイントカード・クレジットカードにかかる事業者アンケートの実施 事業者に対するアンケート 回答数169 <p>⇒ポイントカード・クレジット決済事業を導入する方向で進めていくこととした。</p>
<p>19 地場産業（土佐打刃物、フラフ）の振興</p> <p>《香美市》</p> <p>海外での展開も視野に入れた新商品の開発や販路の開拓のほか、昔ながらの技術や文化の継承を図るため、次世代を担う後継者の育成にも取り組む。</p>	<p>＜土佐打刃物・フラフの普及及び新たな販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 商工業振興対策事業 <ul style="list-style-type: none"> H24：470千円 H25：600千円 H26：600千円 H27：600千円 観光協会運営補助 <ul style="list-style-type: none"> H24：11,000千円 H25：11,000千円 H26：11,000千円 H27：11,000千円 <p>＜次世代を担う人材の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 後継者育成事業 <ul style="list-style-type: none"> H24：600千円 H27：2,700千円 	<p>＜土佐打刃物・フラフの普及及び新たな販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年を通して、学校の授業や観光イベントの機会を利用し、打刃物鍛造体験やフラフ染め体験を行った。 ⇒体験観光プログラムの実績増につなげることができたとともに、地場産業への理解を深めることができた。 観光協会ホームページでの情報発信により、追加注文も合わせて、ナイフ330本を販売した。（H26） <p>＜次世代を担う人材の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修生の受け入れ 1名（H27.4月～）
<p>20 土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化</p> <p>《香美市》</p> <p>利用可能な空き店舗の改修や商店街と地域住民、移住者等の情報交流拠点施設の整備を行うことなどにより、移住者による新規創業も含めた新たな店舗の開業を支援するとともに、商店街を含む地域の活性化を図る。</p>	<p>＜えびす商店街を含む地域の活性化策の推進及び情報交流拠点の整備等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> チャレンジショップの整備補助 <ul style="list-style-type: none"> H27：7,372千円 	<p>＜えびす商店街を含む地域の活性化策の推進及び情報交流拠点の整備等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> チャレンジショップの開設に着手（H27.9月オープン予定）

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
参加事業者数 35事業者 (H23: 29事業 者)	(H27年度末見込) 37事業者 (直近の実績) 33事業者 (H26年 度末)	A+	ギフトカタログの発行を年2回に増やしたこと や、ふるさと納税の記念品にギフトカタログが 活用されたことなどにより、売り上げも増加傾 向にあり、参加事業者数の増加が見込まれる。 <課題> ・ 自立組織の体制の構築に向けたネット販売の 強化 ・ リピーターの増加	・ 利用者にわかりやすかつ魅力 的なサイトへの整備を行い、リ ピーターを取り込み、注文件数を 伸ばすことで販売実績を上げ、参 加事業者数の増加と組織の体制強 化を図る。また、「ふるさと応援 寄附金」記念品用のサイトも新設 し、新たな顧客の獲得を目指す。
商業者数 現状維持 (H23: 873店)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 859店 (H26実績)	B	H25から、幅広い年齢層の市民が活用できるポ イントカードの導入について、先進地視察を 行ったり、専門家の意見を聞くなどし検討を重 ね、地域の規模や目的に見合ったカードの導入 を決定した。 現在、より魅力あるカードにするために行政と の連携も検討中で、減少傾向にある商業者数に 歯止めをかけるべく、引き続きカード事業の取 組を進めていく。 <課題> ・ 商業者の高齢化による廃業	ポイントカード・クレジット決済 等事業を推進し、地域内消費を増 やす仕組みを構築することによ り、新たな商業者を確保する。
刃物製造業者数 現状維持 (H23: 36事業 者)	(H27年度末見込) 34事業者 (直近の実績) 34事業者 (H26年 度末)	B	H25.1月に県中小企業団体中央会から報告され た「土佐打刃物製造業の後継者育成に向けたモ デルプラン」によれば、H16年度時点で、県内 37事業者のうち事業主の年齢が60代を超える 方が全体の8割近くを占め (中でも70代以上は 3割)、後継者が決まっている方は全体の3割 弱となっている。 市場動向は厳しく、新規雇用どころか廃業もい たしかたないと思える方の比率も高く、そんな 中での廃業が続く中、新規に後継者育成事業を 活用し、研修生の受け入れが始まったことは大 きな前進である。 <課題> 職人として独り立ちするためには、研修終了後 の働き場の確保や経営支援等の支援策が必要	引き続き、体験プログラムの実施 やPR広報を行い、広く一般の方 に、地場産業や伝統産業への理解 を深めてもらうとともに、後継者 の確保のため、後継者育成事業の PRに努めていく。
新規店舗の開業数 1店舗以上	(H27年度末見込) 0店舗 (直近の実績) 0店舗 (H26年度 末)	B	空き店舗対策として、チャレンジショップの開 設に取り組んでいる。チャレンジショップは、 27年9月にオープンを予定しており、チャレン ジャー募集のPRを行っている。 <課題> チャレンジの確保及び新規就業用店舗の確 保	チャレンジの確保と安定した 運営を行えるための体制を確立さ せる。また、チャレンジャー卒業 生の新規就業用店舗を確保するた めに、引き続き、商店街の空き店 舗等の情報を調査・整理を行う。

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>21 観光事業から観光産業へ～観光産業の振興～</p> <p>《南国市》</p> <p>交通の要衝という恵まれた立地環境を活かし、地域内の観光資源をつなぎ、地域が誇る史跡資源（長宗我部）や農業などの地域資源を活かして観光を産業として成り立たせる仕組みを構築していく。</p>	<p><観光協会の組織強化></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進ふるさと雇用事業費補助金 H24～25：3名 南国市観光協会補助金（市単） H24～26：計19,572千円 <p><本市ならではの体験型観光の推進と本市に人が訪れてお金を落としてくれる仕組みづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> イベント運営の補助 <ul style="list-style-type: none"> 岡豊山さくらまつり・土佐の食1GP補助金 H24～27：計 市7,400千円 長宗我部フェス補助金 H24～27：計 市4,000千円 観光拠点の整備 <ul style="list-style-type: none"> 県観光拠点等整備事業費補助金 H24：計1,349千円（レンタサイクル、ガイドブック） H25：106千円（長宗我部フェス等） H26：1,600千円（ドライミスト） 観光資源の磨きあげ <ul style="list-style-type: none"> 観光アドバイザー派遣 H25：1回 	<p><観光協会の組織強化></p> <ul style="list-style-type: none"> 観光協会の一社団法人化（H25） <p>⇒運営体制が強化された。</p> <p><本市ならではの体験型観光の推進と本市に人が訪れてお金を落としてくれる仕組みづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 岡豊山さくらまつり・土佐の食1GPを継続して開催することにより集客力のあるイベントとして定着（H24～H27） <p>⇒来場者数 H27：1万5千人</p>
<p>22 体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市の海と山と文化や歴史などの地域資源を活用した体験観光等を推進し、交流人口の増大を図る。</p>	<p><旅行商品の造成と販売></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域まるごと旅行商品の開発販売及びランドオペレーター機能構築事業 県産業振興推進ふるさと雇用事業 H24～26：1名雇用 とさ旅セミナーへの参加（H24、H25） <p><地域の観光情報の発信></p> <ul style="list-style-type: none"> プロモーション活動 <ul style="list-style-type: none"> H24：関西、中国、四国地区 H25：中部、関西、中国、四国地区 H26：中部、福岡地区 <p><歌舞伎を核とした交流の場づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 「香南市歌舞伎でまちおこし実行委員会」の設立及び開催（H26） <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 県観光拠点等整備事業費補助金（三宝山） <ul style="list-style-type: none"> H25：100千円 H26：2,000千円 	<p><旅行商品の造成と販売></p> <ul style="list-style-type: none"> 企画・募集旅行 <ul style="list-style-type: none"> H24：9コース <ul style="list-style-type: none"> 土佐塩の道30kmうおーく、土佐塩の道うおーく（4回）、第1回土佐塩の道トレイルランニングレース、長谷寺坐禅ツアー（2回）、赤岡冬の夏祭りともち歩き ⇒募集310人、参加295人 H25：10コース <ul style="list-style-type: none"> 土佐史跡めぐり～戦国の香美・香南を訪ねる～ツアー（3回）、土佐塩の道30kmうおーく、土佐塩の道うおーく（3回）、第2回土佐塩の道トレイルランニングレース、長谷寺坐禅ツアー（2回） ⇒募集530人、参加331人 H26：20コース <ul style="list-style-type: none"> 第3回土佐塩の道トレイルランニングレース、長谷寺坐禅ツアー（6回）、サンライズ・サンセットシーカヤックモニターツアー（13回） ⇒募集450人、参加368人 <p><地域の観光情報の発信></p> <ul style="list-style-type: none"> エージェントに対するプロモーション活動年間 <ul style="list-style-type: none"> 3回 70社（H24） 2回 31社（H25） 2回 37社（H26） <p><歌舞伎を核とした交流の場づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> H26：弁天座年間317日営業（うち利用238日） ⇒年間来館者数13,383人

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
観光協会の会員数 150 (H23: 77)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 85 (H26年度末)	A-	土佐の食1GPは、継続的な実施とPR活動により、集客力のあるイベントとして定着しつつある。また、ボランティアガイド組織の設立により観光商品の開発やブラッシュアップが進み、観光拠点の整備により観光客の受入れ体制が強化された。 <課題> ・観光協会の体制強化(会員の増加による財政基盤の強化)	・観光協会の入会メリットを示した実効性ある入会勧誘の実施 ・観光コンテンツの創出及び磨きあげ
一般社団法人数(観光協会の法人化) 1組織	(H27年度末見込) 1組織 (直近の実績) 1組織(H26年度末)	A+		
主要4観光施設※の 入り込み数 500,000人 (H21: 483,000人) ※県立歴史民俗資料館、西島園芸団地、パシフィックゴルフ(以上、来場者)、道の駅南国風良里(ショップ、直販所のレジ通過人数)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 539,000人(H26年度末)	A+		
年間プロモーション活動 年6回以上(年のべ50社以上)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 年2回(年のべ37社)(H26年度末)	A	旅行商品については新商品の開発を行い、また、継続実施することでブラッシュアップが図られた。 H26から歌舞伎を核とした交流にも力を入れており、H27の絵金歌舞伎公演に合わせて歌舞伎により親しんでもらうためのワークショップを開催し、2日間にわたる公演はいずれも立ち見が出る盛況ぶり、県外から複数の団体観光客の姿も見られた。歌舞伎という地域資源を活用した取組は広がりを見せてきており、今年度は大歌舞伎役者を招いた公演も予定している。 <課題> ・地域資源の発掘及び旅行商品のさらなる磨き上げの推進 ・観光協会の体制強化	・「土佐の観光創生塾」などへの参加を通じて、顧客ニーズ、トレンドをふまえた旅行商品の開発及び既存商品のさらなるブラッシュアップを図るとともにこれらに取組む観光協会の人材育成及び体制強化を図る。
主催旅行の開催 10コース・募集 200人以上	(H27年度末見込) — (直近の実績) 20コース、募集 450人(H26年度末)	A+		
弁天座来館者数 11,000人 (H25: 10,000人)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 13,383人(H26年度末)	A+		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>23 「森の駅」を中心とした体験型観光の推進</p> <p>《香美市》</p> <p>へふ峡温泉を「森の駅」と位置づけ、体験型観光の拠点施設として森林を活用した観光を推進する。また、体験プログラムの実施による地域住民との交流や地域の活性化につながる香美市の新たな産業としての観光の育成を図る。</p>	<p><体験型観光プログラムの確立></p> <ul style="list-style-type: none"> 体験プログラム受入団体への助成（市） <ul style="list-style-type: none"> H24：200千円 H25：150千円 H26：150千円 H27：150千円 高知県観光拠点等整備事業費補助金 <ul style="list-style-type: none"> H24：735千円 H25：2,000千円（龍河洞照明整備） <p><情報発信の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> 観光協会運営補助 <ul style="list-style-type: none"> H24：11,000千円 H25：11,000千円 H26：11,000千円 H27：11,000千円 H26 龍河洞のインバウンド環境整備（案内用多言語アプリの開発） 	<p><体験型観光プログラムの確立></p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通して実施される既存の各種イベントや体験プログラムの企画・運営を通して、観光資源の磨き上げを行うとともに、新規イベント（香美バル（H26.10月、H27.10月（予定））を実施した。 ⇒観光協会及び実施団体の体制強化を図ることができた。 <p><情報発信の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> SNSでの発信を充実させるとともに、会員向けの情報誌や季節ごとのパンフレット等の発行を行った。（H24～H27） ⇒香美市観光情報のPRを行うことができた。
<p>24 広域観光の取組の推進</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>高知中央広域定住自立圏共生ビジョンの観光事業において、物部川地域の自然、観光施設、体験メニュー等の多様な観光資源を広域的に組み合わせ、魅力的な観光商品とするとともに、一体として情報発信を行うことにより、観光客の広域的な誘致を推進し、交流人口の拡大を図る。</p>	<p><観光商品の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> とさ旅セミナーへの参加 <ul style="list-style-type: none"> H24：11回 H25：7回 エリアキャンペーンの実施（H24） <ul style="list-style-type: none"> 実行委員会への参加（4回） エージェント向けモニターツアー実施 <ul style="list-style-type: none"> H24：5社8名参加 H25：5社5名参加 <p><観光客の広域誘致></p> <ul style="list-style-type: none"> エージェントへのセールス <ul style="list-style-type: none"> H24：中四国（キャラバン参加） <ul style="list-style-type: none"> 関西・中四国地区（計29社） H25：中部・関西地区、中四国地区（計37社） H26：中部・福岡地区（計37社） パンフレット等の作成 <ul style="list-style-type: none"> H25：広域観光パンフレット（2万部） H26：広域観光パンフレット増刷（GW用1万部）及び改訂版作製ポスター（B1サイズ：200部、B2サイズ：400部）体験パンフレット（1万部） 観光・物産展の開催 <ul style="list-style-type: none"> H25：26各1回 <p><組織体制の充実・整備></p> <p>（H24）</p> <ul style="list-style-type: none"> 物部川地域観光振興協議会 <ul style="list-style-type: none"> 会議開催：6回 高知県観光拠点等整備事業費補助金：1,059千円 南国市、香南市、香美市負担金：1,800千円 <p>（H25～）</p> <ul style="list-style-type: none"> 高知中央広域観光協議会 <ul style="list-style-type: none"> 設立総会（H25）、総会（H26・27） 実務担当者会 <ul style="list-style-type: none"> H25：9回 H26：10回 H27：1回 高知県広域観光推進事業費補助金 <ul style="list-style-type: none"> H25：2,000千円 H26：3,000千円 	<p><観光商品の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> とさ旅セミナーへの参加を通じて、物部川地域の旅行プランを企画し、セールスを行った。（H24・25） エリアキャンペーンの実施により、3館セット券など新たな観光商品を造成した。（H24） エージェント向けモニターツアー実施（H24・25） ⇒地域の観光資源等について、旅行会社の意見等を聞き、協議会全体で共有することにより、観光商品の造成力が強化した。 <p><観光客の広域誘致></p> <ul style="list-style-type: none"> エージェントへのセールス・プロモーションの実施（H24～26） ⇒圏域としての体験型観光のPRやセールスを行うことにより、訴求力を高めることができた。また、エージェントのニーズを協議会全体で共有することで、より魅力ある商品づくりに向けた理解が深まった。 ・周遊コースの提案型パンフレットの作成などを通じ、広域的視点に立った取り組みが進んでいる。（H25・26） ・「高知まんなか観光物産展」の開催により、圏域のPRを行うことができた。（H25・26） <p><組織体制の充実・整備></p> <ul style="list-style-type: none"> 物部川地域観光振興協議会での活動を経て、高知中央広域観光協議会が設立（H25構成：高知市・南国市・香美市・香南市、各観光協会） ⇒高知県中央広域定住自立圏構想のもと4市（高知市及び物部川地域を構成する3市）による取り組みがスタートし、広域観光を推進する体制がより充実した。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
<p>体験プログラム数 20プログラム (H23：13プロ グラム)</p> <p>体験プログラム受け 入れ人数 500人 (H23：一人)</p>	<p>(H27年度末見込) —</p> <p>(直近の実績) 23プログラム (H26.12末時点)</p> <p>(H27年度末見込) —</p> <p>(直近の実績) 3,443人 (H26.12末時点)</p>	<p>A+</p> <p>A+</p>	<p>交流人口の拡大に向けて、新規イベントの開催 や体験プログラムの造成に取り組んでいる。体 験プログラムについては、年々、増加してお り、既存のプログラムを継続実施することで、 磨き上げも行われている。 受け入れ人数についても、実績が目標数値を大 きく上回ることとなった。</p> <p><課題> 体験プログラムの受け入れ体制及び観光協会 の体制強化</p>	<p>体験プログラム等の実施団体と連 携を図り、イベントやツアーを定 期的に開催できるように支援を行 い、体験型観光の活性化を図る。 また、観光創生塾に観光協会職員 や地域の受け入れ団体のメンバーを 参加させることで、既存メニュー の磨き上げを行うとともに、人材 育成と体制強化を図る。</p>
<p>観光客入り込み数 80万人 (H21：72.1万人 H22：78.1万人)</p> <p>(内訳) 主要観光施設訪問者 数 (H21：67.5万人 H22：73万人) 体験メニュー受け入 れ人数 (H21：4.6万人 H22：5.1万人)</p>	<p>(H27年度末見込) —</p> <p>(直近の実績) 60.2万人(H26年 度末)</p> <p>(内訳) 主要観光施設訪問者 数：55.7万人 体験メニュー受け入 れ人数：4.5万人</p>	<p>B</p>	<p>広域観光組織の設立により、各市及び観光協会 の連携による広域観光の推進に向けた体制が整 備された。</p> <p>主要観光施設においては、H24.3月から改修の ため休館中の施設があり、H26年度も引き続き 休館となった。</p> <p>体験観光施設においては、H26年度は夏の長雨 や数回にわたる台風の影響により、客足が鈍っ たことと、施設によっては被害を受けた所も あった。</p> <p><課題> 地域の観光資源の発掘や磨き上げにより一層取 り組み、更なる誘客を図ることが必要である。 また、広域観光組織の体制の充実強化に向けた 研究・検討が必要である。(ワンストップ窓口 機能を持つプラットフォーム化など)</p>	<p>・地域での観光実践者の育成や観 光資源の発掘・磨き上げの一層の 取り組み ・「土佐の観光創生塾」等を通じ た、観光事業者などの観光商品造 成力の強化 ・広域観光組織の一層の連携によ る取り組みの推進と、充実強化に 向けた研究・検討(観光プラット フォームづくり勉強会等)</p>

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>25 大学生による地域応援団（サポーター）づくり</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>地域と大学等の学生の交流機会を増やし、相互の理解を深めることにより、物部川地域をサポートする『地域応援団（サポーター）』を作っていく。</p>	<p><交流機会の創出・交流後のフォローアップ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生グループと地域団体等のマッチング <ul style="list-style-type: none"> H24 6件 H25 10件 H26 5件 H27 1件（H27.6月末時点） ・結プロジェクト推進事業 <ul style="list-style-type: none"> H25 75千円 	<p><交流機会の創出・交流後のフォローアップ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流した学生数 <ul style="list-style-type: none"> H24 63名 H25 164名 H26 353名 H27 43名（H27.6月末時点） <p>⇒県内大学の学生の活動が広がり、地域との交流が深まった</p> <p>⇒継続的に地域での活動を実施している団体は地域住民等との間に信頼関係を構築することができ、地域活動・イベントや交流会の企画段階から参画することで、より頼りとされる存在になりつつある</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
交流した学生数 累計100人以上 (H23: 19名 ・高知県立大学2名 ・高知工科大学9名 ・高知大学4名 ・県外大学4名)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 353名 ・高知工科大学280 名 ・高知県立大学31名 ・高知大学42名 (H26年度末)	A+	地域と学生団体(サークル活動)が良好な関 係を築き、継続的な交流活動が確保されてい る。 H26年度末の交流した学生数は、H27目標 値を大きく上回って達成している。 マッチングした地域と学生団体は行政を介す ることなく、直接繋がりをもって、地域活動を行 っている。 <課題> 地域に興味を持つ学生の確保及び活動内容の 的確な把握	現在までの継続したマッチング 作業と交流後のフォローにより、 地域住民と学生に信頼関係が築か れている。お互いに直接やり取り する中で、地域活動など企画段階 から協働して行っている。 今後はそれぞれの自主性を尊重 したうえで、必要に応じた支援を 行う。

COURSE	TITLE	CREDIT	COURSE OBJECTIVES	
			KNOWLEDGE	SKILLS
PHYSICS	PHYSICS	3	1. Understand the basic principles of physics. 2. Apply the laws of physics to solve problems. 3. Use mathematical techniques to analyze physical situations.	1. Design and conduct experiments. 2. Collect and analyze data. 3. Communicate results.
PHYSICS	PHYSICS	3	1. Understand the basic principles of physics. 2. Apply the laws of physics to solve problems. 3. Use mathematical techniques to analyze physical situations.	1. Design and conduct experiments. 2. Collect and analyze data. 3. Communicate results.